

第5回府中市学校適正規模・適正配置検討協議会の開催結果

- 1 日 時 令和5年5月15日（月） 午前10時30分～正午
- 2 場 所 府中市教育センター 2階 第1・2会議室
- 3 出席委員 10名
岡田智委員、池澤龍三委員、小川正人委員、忍足留理子委員、
櫻井直輝委員、佐藤光宏委員、志賀定一委員、
志水清隆委員、水橋佳也子委員、吉垣親伸委員
- 4 欠席委員 高橋史委員、堀井聡子委員
- 5 出席職員 矢ヶ崎教育部長、佐伯学務保健課長、角倉学校施設課長、
濱田教育指導担当主幹、奥学務保健課長補佐、遠藤学校施設課長補佐、
崎井学校施設課副主幹、田中学務保健課係長、七里学校施設課主査、
坂本学務保健課職員、林学校施設課職員
- 6 傍聴者 1名
- 7 内 容 1. 開会
2. 第4回協議会の会議録確認について
3. 議題
 (1) 本日の概要と今後の進め方
 (2) 対策を検討するグループの現状分析
 (3) 対応策候補の検討
4. その他
5. 閉会
- 8 配布資料 第5回府中市学校適正規模・適正配置検討協議会 次第
府中市学校適正規模・適正配置検討協議会第5回協議資料
第4回府中市学校適正規模・適正配置検討協議会の開催結果

会議録

【事務局】

皆様こんにちは。定刻となりましたので、ただ今から「第5回府中市学校適正規模適正配置検討協議会」を開催いたします。それでは、会長お願いいたします。

【会長】

皆様、こんにちは。お忙しいなかご出席くださり、ありがとうございます。それでは、ただ今から、第5回府中市学校適正規模適正配置検討協議会を開催します。

なお、本日の会議の予定ですが、概ね1時間半程度を目途に進めていければと思いますので、ご協力のほどよろしく申し上げます。

はじめに、事務局に確認しますが、本日の傍聴の申出の状況はいかがでしょうか。

【事務局】

本日の傍聴希望者は1名でございます。

【会長】

皆様にお諮りします。傍聴の申出がありますが、許可することに異議はありませんか。

《委員からの「異議なし」の声》

それでは、事務局は傍聴者を会議室の中に案内してください。

【会長】

次に、委員の皆様の出席状況について、事務局から報告してください。

【事務局】

本日は委員、委員から、ご都合のために欠席との連絡をいただいております。

なお、出席委員数が過半数に達しておりますので、本日の会議は有効に成立しております。

【会長】

ありがとうございました。次に、前回会議録の確定をしたいと思います。既に委員の皆様には事前に送付していますが、何か修正等の連絡が事務局にありましたか。

【事務局】

会長より、ご自身の発言内容について文言の体裁に関する訂正をいただいております。以上でございます。

【会長】

ありがとうございます。

それでは、本日、前回会議録を確定し、今後、事務局において市政情報公開室や市のホームページ等で公開することとします。

なお、本日、机に確定した会議録を配布しておりますが、黄色く着色している部分は、委員個人を特定する表記が含まれていますので、公開時には削除いたします。

続いて、お手元の次第に従って議事を進めますが、はじめに、事務局から資料の確認をさせていただきます。

【事務局】

それでは、確認をさせていただきます。

本日は、会議次第、席次表、前回会議録のほか、後ほどご審議いただく議題に関連資料といたしまして、

資料 府中市学校適正規模・適正配置検討協議会 第5回 協議資料

を配布しております。また、説明時の参考資料として府中市学区域地図がございます。

これらの資料につきまして、不足等はありませんでしょうか。

本日の資料につきましては、以上でございます。

【会長】

それでは、本日の議題に入る前に、本日の大規模校視察と先月の小規模校視察においてそれぞれ感じられたことなど、何かご意見、ご感想などをいただければと思います。

何かございますか。

【委員】

前回、小規模を見させていただいて、また今回は大規模校を見させていただいたのですけれども、こんなに違うのかということを実際に目の当たりにして、何とかしなくてはいけない状況なのだという実感しました。

そのまえの協議会の時に、小規模校を小中一貫にしたらどうかとお話しをさせていただいたのですけれども、武蔵台小学校を見させていただいて、小学校に秘められた人の思いとか強いものを感じてしまい、統合など頭では考えていても、実際に見に行くと違

う思いが出てくるのだと前回と今回視察させていただいて感じたところです。

【会長】

ありがとうございました。委員もおっしゃったとおり、小規模校・大規模校の問題を頭の中で整理して分かったつもりでいたのですが、実際に視察して驚きましたし、問題を再確認する必要性を実感しました。特に今日の二小は、許される条件を精一杯に活用しながら、ぎりぎりのところで教育活動をしているのだと肌で感じましたので、これからの審議に活かせればと思います。

それでは次第の3の議題について事務局から説明をお願いします。

【事務局】

はじめに、協議会資料をご覧ください。

1 ページ目をご覧ください。

本日の概要と今後の進め方になります。

本日第5回は、児童生徒により良い教育環境を確保していくことを目的として、グループごとに適正化に向けた対応策の候補を協議いただくため、主な協議事項を記載しています。

次回の第6回目は、各学校の適正規模・適正配置に向けた対応策を絞り込んでいただき、第7回・8回では、これまでの検討を取りまとめた答申書をまとめていただきます。

2 ページをご覧ください。

本日は、グループ別の現状分析と、対応策候補の検討の2つが議題になります。グループ別の現状は、児童生徒数に係る現状と、通学路に係る現状について説明します。対応策は一般的に4種類あります。グループごとに、児童・生徒数、通学路の状況を基に、4つの対応策のうちどの対応策ならば適応可能性があるのか、検討します。

3 ページをご覧ください。

第4回検討協議会で委員の皆様から挙げられた意見を総括すると、一小・二小・武蔵台小・七中を中心に検討する方向となりました。

その4校が属するのは小学校のA、D、Eグループと中学校のDグループとなります。

4 ページをご覧ください。

グループごとに、各学校の児童・生徒数、1学級当たりの児童・生徒数、学級数を推計しました。

児童・生徒数、学級数推計は、他校から児童生徒を受け入れることが可能と考えられ

る学校に目星を付けるため、また、中長期的な状態を把握するために使用します。

統合を検討する場合、統合後の学校の規模を予測するために使用します。

特に、1学級当たりの児童生徒数について、小学校では35人、中学校では40人に近い場合、その学年の児童生徒が数人増加すると1学級増加することとなるため、留意が必要となります。

13ページをご覧ください。

各学校で今年度を基準にした収容可能な学級数と、今後それぞれの年度で受け入れを開始した際の受け入れ可能見込み数を整理しました。

受け入れ可能な児童数と学級数の余裕がある学校であれば、学区変更や学校選択制を導入し、他校から児童生徒を受け入れることが可能と考えられます。

18ページをご覧ください。

1辺250mのメッシュごとに、0～14歳の人口の大小を、色の濃淡で示しています。

学区変更や、一部地域に限定した学校選択制を導入して適正規模化を図る場合、子どもが少ないエリアの学区を変更しても、児童生徒数に与える影響は小さいため人口の分布状況も考慮する必要があります。

19ページから22ページまでは、小中学校のグループごとに、表示しています。

23ページをご覧ください。

距離の観点で各学校に通学が可能な範囲を示すために、各学校を中心とする半径1kmの円を描きました。なお、「基本的な考え方」では、小学校の通学距離を概ね2km以内としているため、直線距離で半径1km以内であれば通学が十分な距離の範囲内にあるという目安でもあります。

このページ以降は対策を検討するグループに特化し、距離のみを考えたときに越境の実現可能性についてご説明します。

若松小を中心に考えると、二小学区の東側は、距離の観点では若松小にも通学可能です。

24ページをご覧ください。

二小学区の南側は、距離の観点では八小にも通学可能です。

25ページをご覧ください。

一小学区の南側は、距離の観点では三小にも通学可能です。

26ページをご覧ください。

七小学区の多くは、距離の観点では武蔵台小にも通学可能です。

武蔵台小学区の多くは、距離の観点では七小にも通学可能です。

武蔵台小学区の南部は、距離の観点では本宿小にも通学可能です。

27ページをご覧ください。

一小学区の北部は、距離の観点では新町小や六小にも通学可能です。

二小学区の北部は、距離の観点では六小にも通学可能です。

28ページからは、同様に中学校となりますが、こちらは、「基本的な考え方」では概ね4km以内としておりますが、本図では、グループごとに各学校を中心として、半径2kmの円を描いています。

31ページをご覧ください。

七中学区の大部分は、距離の観点では四中・十中にも通学可能です。

四中・十中学区のうち甲州街道より北側は、距離の観点では七中にも通学可能です。

32ページをご覧ください。

七中学区の東側は、距離の観点では一中にも通学可能です。

33ページをご覧ください。

適正規模・適正配置の問題を解消するための対応策として、一般的には大きく4つの手法があります。

この4つの対応策の中から、各グループで適応可能と考えられる対応策を挙げることを本日のゴールとしています。

34ページをご覧ください。

学校選択制の5つの手法ですが、様々な条件を設定しており、その地域の特性に合った対応策を講じる必要があります。

35ページをご覧ください。

都内他自治体における学校選択制の実施状況を表にまとめた資料になります。学校選択制は23区を中心に都内でも導入実績はありますが、廃止、又は休止し、指定校制度に戻している自治体も少なくないのが現状です。

38ページをご覧ください。

Aグループから順に対応策ごとに考慮すべきデータとその現状を整理しました。

以上、資料の説明とさせていただきます。

補足として人口推計について国立社会保障・人口問題研究所の将来推計の動きがありましたので、有限責任監査法人トーマツよりご説明いたします。

【トーマツ】

先程ありましたように、国の中期的な人口の推移を推計する国立社会保障人口問題研究所から、日本の将来推計人口が更新されました。今回出された推計は国全体の人口の動向であり、府中市の推計人口はまだ公表されていません。概ねこれまで5年単位で推計されているので、来年に各自治体の推計が出てくる形になります。今我々は、前回の推計結果をもとに人口推計をしておりますが、今回公表された推計結果との違いについて分析したことを皆様にご紹介させていただきます。結論から申し上げますと、国の推計では、前回の推計から出生率を下げています。前回の推計では、出生率は概ね1.42でした。これが今回の推計は前回から約7%下がりました、1.33の出生率で推計しています。これが今回の人口推計の肝の部分になります。今皆様に見てもらっている府中市の児童生徒数推計について、令和2年度の検討協議会では国の推計に倣って1.44ぐらいの出生率で計算していました。今となっては少し高めに設定されていたということで、前々回の検討協議会で、推計を見直したものを皆様に示したと思います。そこでは、これまでの経緯を踏まえて出生率はおおよそ1.2、すなわち前回よりも16%下げた値で推計しなおした値をお示ししております。前回よりも出生率が下がることを前提で物事を考えましょうということで、この前提は国も府中市も変わらない方向性です。すなわち、大きな方向性として府中市の推計は国と考え方が同じだと考えていただければと思います。

【会長】

事務局から説明の内容についてご質問はありますか。

第5回の協議資料、そしてトーマツから説明した内容に基づいて、これから議論に入っていきたいと思うのですが、その前に参考資料1, 2に関して事務局から特段ご説明はないでしょうか。

【事務局】

参考資料1につきまして、令和5年度児童・生徒数報告集計表（4月7日現在）ですが、これまで特別支援学級のクラス数がお示しできていなかった点から、こちらを含め

た全ての表をお示しさせていただいております。

続きまして私立・国公立在籍人数推移につきましては、一小や二小の児童数が多いのにも関わらず、中心部の中学校が大規模校ではないのはなぜかというご質問をいただきまして、私立・国公立の進学する生徒は毎年一定数いるということと、一小の生徒も分散して中学校に通うということご説明しましたが、その私立・国公立に進学する生徒がどれぐらいになっているのか示したものとなっております。

以上でございます。

【会長】

いまの参考資料1, 2、今までの事務局やトーマツからの説明を含めまして、確認したいことや質問したいことなどを最初に受けて、その後に具体的な審議に入っていきたいと思います。

まず、今までの説明に関して確認したいこと、質問したいことがあれば委員の方からお願いします。

【委員】

資料をご準備いただきありがとうございました。2点質問がございまして、1点目に出生率を1.2くらいで計算したことなのですが、これは今後回復することは想定されている計算ですか。コロナという特殊な条件があるので、一番下がっている状態で見えまうと過少となってしまうので、そこはどのように考慮されたのかお伺いしたいです。

2点目は、参考資料2の方で、私立・国公立に進学する児童・生徒は増加しているように見えるのですが、この傾向は続いているものなのか一時的なものなのかお伺いできればと思います。

【トーマツ】

1点目の件につきまして、出生率1.2というのはコロナの影響は加味していません。コロナ以前の時点で出生率は1.2でした。前回の推計時は人口減少が回復していくかという思いがあり、高めに設定されていたと思うのですが、今回は人口減少が回復しないと想定しています。その違いで出生率がっているとご理解いただければと思います。

【事務局】

進学率につきましては、平成30年度から令和5年度のデータを提示させていただいているのですが、それ以前のデータを集計し始めた時から年々上昇していることから、今後も上昇していくと予想しております。

【事務局】

補足なのですが、中学校の進学率と小学校の進学率にはブレがあって、小学校は平成25、26年度が3%前後と一番低い状況にありました。平成11年から22年度までは4%近くだったのですが、25、26年度に一度下がって、今は4%前後で推移しています。中学校は平成26年度の17.1%がピークになっていまして、それ以前は13%～15%台で推移しており、それ以降概ね15%台で、令和4、5年度は16%程度となっております。こう考えると14%～17%で推移している状況となっております。

【委員】

分かりました、ありがとうございます。

【会長】

他に委員の方から確認・質問等ありましたらお願いします。

なければ、事務局から説明があった資料・データを基に、前回検討対象としていた、大規模校では一小、二小、小規模校では武蔵台小、七中の今後の対応策を議論していきたいと思います。資料として確認していただきたいのは38、39、40、41ページの各グループにおける対応方法の分析で、ここで対応策を整理しながら進めていきたいと考えております。これまでの議論の中で、大規模校では一小、二小、小規模校では武蔵台小、七中の4つの学校は、それぞれ所属するグループ内で、どのような対応策があるのかをまず検討してみようと思います。また、グループ内だけではなく、むしろグループの外との関係で考えた方がより良い対応策が出てくるところもあると思うので、まずグループ内での対応策の検討、次に他のグループの状況を加味して、より良い対応策もあるかと思うので、グループ外の諸条件を活かした対応策も含めて議論していければと思います。最初に大規模校の二小を含むAグループ、大規模校の一小を含むBグループについて意見交換したうえで、小規模校の武蔵台小と七中のDグループ、この順番で意見交換させていただければと思います。まずはAグループについてグループ内、グループ外の色々な条件を加味して意見を頂ければと思います。

【委員】

対応策に入る前に、もう一度確認させていただきたいのですが、二小の特殊性はこの先も変わらないという状況なのですが、駅から遠いところで大きなマンションができると、どれだけ増えるのでしょうか。児童数が減っていくことは一般的なのですが、一小、二小の場合は駅前にマンションができて児童数が増えましたよね。数年経てば落ち着いて減ってくるのではないかと思うのですが、一小、二小は変わらない。これはどうしてなのでしょう。これは二小の学区域全体でほとんど変わらない状態なのか、それとも

二小学区で大きなマンションができて、ピークを過ぎて減少している地域もあるのか、それはなぜなのか聞きたいと思います。

【会長】

今の質問に関わるデータは、資料の4ページにAグループの二小、十小、白糸台小、若松小のデータがあります。これを見ると推計では令和10年まで出ています。全体で児童数は緩やかな減少傾向が見えてくるのですが、それは二小に限らず他の学校でも減少傾向にあります。減少傾向の幅が緩やかなのは統計からわかっていまして、大規模校は全体的に児童数が減少傾向にあるが、大規模校であり続けていることがデータからわかります。

事務局の方でその点、追加で説明していただけますか。

【トーマツ】

今の話でいうと、2点ありまして、1点目はこの検討期間中、もしくは期間前に大きなマンションが建って児童数が高止まりしているのではないかという指摘だったと思います。もう一つは、それ以降はマンションの特性として子どもたちは転出していくので、マンション内で高齢化が進んで新しい子どもが出てこないのではないかというところがございます。回答としてはマンションの特性を加味した推計はしていません。どういうことかといいますと、推計をするときに2つ大きな条件がありまして、1つは子どもが生まれること、もう1つは子どもを生む人口が移動するかどうかの2つが大きな条件です。住宅街とマンションで条件を変えてはおらず、今回の推計では府中市一律で子どもが生まれたり、移動したりで計算をしています。結論としては、一時的なマンション特有の人口動態をあらわしたわけではありません。

以上です。

【会長】

委員からまた何かございますか。

【委員】

以前、うわさでなのですが、二小学区のマンションの多くは会社が買っているのので、子育てをする若い世代を中心に入れて、子どもが大きくなると次の若い世代の方たちが入ってくるということを以前聞いたことがあるのですが、そういった会社のマンションが多いとなると、常に二小学区の子どもたちは減ることがないのではないかと思います。それはただの噂なのでしょうか。

【トーマツ】

そういった噂まで把握できていないというところ、また、そのような条件の一つ一つを推計に反映することは難しく、推計の条件として人の移動と出生率は一律であるという仮定を置かせていただいていることにご理解を頂きたいです。

【委員】

分かりました。

【会長】

児童・生徒数の5年、10年先の推計は様々な要因がからまって難しいですけども、今ある使用可能な要因で確定値に近い形で推計を出していると思います。逆に言えば、これに代わる信憑性の高い推計はないと思うので、この推計に基づいて議論することが一番手堅いと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは二小に関して議論を進めていきたいと思います

【委員】

今日は現場を見させていただきありがとうございました。私は建築が専門なので、クールに発言させていただきますと、正直二小を見させていただいたときに、これまで大規模校を見てきたのですが、それほど驚かなかったです。建築的に何をしなければならぬか敢えていうと、体育館が非常に狭小です。昭和の時代の700㎡規模のもので、今の体育館では1200～1300㎡のものはあります。あれだけ混みあっているということから考えても、体育館を基本的な規模にしてあげなくてはいけないと思いました。細かいことを言いますが、プールが非常に大きな面積を占めていますので、プールと体育館を合体させるなど、うまく配置を利用する方法もあるでしょうし、私が担当していた学校の中にはプールを民間スクールに委託し、学校内にプールを置いていない学校がありました。二小と同じく児童数が1000名を超える小学校でした。そこは体育館を建て替える場所が無く、グラウンドを狭くするわけにはいかないので、苦肉の策で体育館をプールに移しました。体育館をプールに移すのは二小でやろうというわけではないのですが、体育館を建て替えることは大事だと思います。先程人数の話が出ましたが、昭和の時代は、いつか児童数が莫大に増えるのではないかとされていましたが、冷静にどんなに若い世代が入ってきたとしても、生まれる子どもの数自体はそれほど多くない。あるいはそれは数十年先になってしまうので、そういう意味で4ページにあるように人数は粛々と減っていきます。それと、この数字が正とすると、わずか5、6年の間に150名近く絶対数が減っています。これは1学年分がいなくなるのと同じです。それぐらいの規模感で減っていくとなると、今ある二小の校舎を使いながら、体育館はなるべ

く早めに建て替えた方がいいなと思います。もう一つ言うと、雨漏りしていたので、構造的に可能なのであればスラブを作って教室に変えてしまうこともできなくはないと考えます。大規模改修の時にそのように教室に余裕を持たせたり、体育館を建て替えるときに特別教室を入れたり、できるのではないかと思います。あと一つ、このままの状態でも本当にいいのか考えたときに、学区を見直すまではいかなくとも、大規模校を好ましく思わない親御さんに、違う学校に通わせるという選択肢は与えてあげた方が良く、それを選ぶかはそれぞれのご家庭の判断で、という対応は最低限やった方がいいのではないのでしょうか。本当に自由にどこでもいいのかというのは私もわかりません。府中市の風土があると思うので、一概にいえませんが、移動することを阻害しないという意味で、選択肢をもっておいた方がいいのではないかと思います。

【会長】

ありがとうございます。基本的には校舎の増改築が一つ、もう一つは学区の見直しというご意見かと思います。ただ、学区の見直しの際には様々な選択肢がありますが、学校選択は一方通行で行うか、それとも一方通行ではなく自由とするのか、そこは論点であると思います。先程の事務局からの説明では、通学の距離等も考えなくてはならないとのことで、二小の場合には八小、六小、若松小あたりは通学可能な学校であり、つまりグループ外の学校へも通学可能との説明でしたが、その辺も含めて他の委員の方々どうですか。

【委員】

私個人の主義主張としては、学校選択は好きなのですが、今回に限って言えば、学校の選択を親に任せていいのかということは議論した方がいいのではないかと思います。そもそも学校の条件を均一にして同じような教育ができるように整備することを目指すという前提で議論する中で、学校の特色で選ぶということは矛盾があるように感じます。かつ、学校を見学するなかで、学校の特性というものは地域性からきているような印象を受けました。その地区が作ってきた風土が学校の文化に反映されているのであり、特別な教育を行っているというよりは、地区の方々にボランティアに来ていただいて各学校の現状があります。そのため、越境してその教育を受けたいがために来た方々が、その地域と上手く、親和してやっていけるのかという問題が生じます。もう一つは、親が自由に学校を選択するとなると、通学路の問題が多様化します。通学路の安全、登下校の安全という問題を行政が解決しづらくなり、安全な通学路を整備する責任の所在も曖昧になるわけです。選んだ側の責任という意見が世論に多くなってしまったときに、通学路を安全にしていこうという議論が立ち行かなくなると思われます。子どもの安全を考えれば学区を教育委員会側で定めて、学区の中はしっかり整備できるという様な議

論をしていく必要があると思います。そう考えたときに、大規模校に関してはやはり、学区で政策的に調整していくことを第一に考えた方がいいのではないかと感じました。

【会長】

ありがとうございました。委員のご意見は、通学区域の見直しと学校選択があるけれども、学校選択という点については、いくつかの点で疑問があるので、通学区域を教育委員会で設定し、通学区域の変更で児童数を調整したほうがいいのではないかという意見です。

他の方もご意見を自由に出していただいて、ここで決めるというわけではないので様々なアイデアを出して、メリット・デメリット含めて検討していきたいと思います。

【委員】

二小も児童数が減っていく方向で、1学年4学級レベルであればあの校舎でも十分にやっていけると思うのですけれども、もし減っていかず、あの状況が続くのであれば、先程1年生の体育の風景を見させていただいたのですけれども、1年生だけでいっぱい、数えたら10人程度の先生が付いて指導されていました。二小の児童は素晴らしいのか、舞台の上の2人の先生のことを必死になってみて、一生懸命運動会の練習をしていました。目的がしっかりしているからなのかもしれませんが、あれだけまとまって活動ができるのは中々できないだろうなという思いがしているのですが、本当にこれは大変なことだなと思いました。これから教室数を増やして何とか続けていくのかもしれませんが、あの1年生の状況を見たら、なんとかしていかないと通常の教育を子どもたちに保証できないのではないかという思いを強く持ちました。二小の児童数が変わらないとすれば、様々な方法を用いて学区を狭くした方がいいのではないかと思います。

【会長】

副会長、なにかありますか。

【副会長】

本日はありがとうございました。二小の子ども達の頑張っている姿を見ていただけたかと思います。先日、くらやみ祭が4年ぶりに開催され、二小の校長として行くことは初めてでした。府中という土地柄もあり、学校が地域に強く根差していると感じました。子ども神輿や山車の関連でご挨拶に伺うと、親子3代で二小に通っているのだという話を聞きました。皆様が熱い思いで学校の教育を見て下さり、支えて下さっていることをとても感じました。それは六小の時も感じていて、七小の時も感じていました。地域の土地柄もあるのだと感じているところですが、そう考えると学区の見直しは難しいので

はないかと思えます。10年ぐらい前にも学区を変更されていると思うのですが、子どもがいっぱいでこれ以上の受入れは無理ですという理由で学区を変えることは厳しいと感じました。18ページの資料では、東西で見ると、一小は大規模校なので受入は不可能で、東側の若松小との間には府中の森公園や自衛隊の基地があります。そのため、東側の子どもたちが若松小に通うのは安全面で厳しい。そこで南北で考えたときに、六小と八小が新築校になることを考えると、自由選択が望ましいのかなと思います。六小時代に若松小との自由選択がありました。今年から六小を選択できますよとアナウンスしないと、六小に子どもが来ない状況があったので、一気に増えていきませんが、天神町地域などの子どもたちが選択の対象になるのかなと思います。ただその地域の子どもたちがどのような流れで他校を選択するのか考えると、どのくらい減るのか未知数だと思っています。資料を拝見するとその対策が一番いいと感じました。

【会長】

ありがとうございました。本日4つの学校について今日中に皆様のご意見をうかがって、具体的に詰めていく作業をしたいと思っていますので、二小の対応策についてご意見があればお願いします。その後に、一小、武蔵台小、七中の対応策に関して意見を伺いたいと思いますので、他に二小についてご意見がある方いらっしゃいますか。

【委員】

私は子どもが二小に通っていたのですけれども、その時はとても楽しく通っていて、先生方のご支援を頂いて通っていたことを改めて感じました。ただ、現在更に教室数が増えていて、災害があったときに対応しきることができるのか不安になりました。今日、副校長先生の話の伺っていて、先生のリソースを持っていかれていることがもったいないと感じました。学校の自由選択の話聞いて、保護者として自由に選べと言われたときに、判断材料になる情報を得ることは難しいと思います。選択した学校を「ちょっと違ったな」と感じるようなことがあるとしたら、自分で選んだことが負担になるのではないかと思いました。近所の方の話聞いて決めることが多いとなると、偏った情報で決めざるを得ないので、自由選択は難しいと思います。ただ、学校が新築になっていて、子どもが一中に通っているのですが、一中も新しくなって、雰囲気も特別なものがありまして、新築校の特別な雰囲気は魅力だと思うので、選ぶ方が多いと思います。

【委員】

今日はありがとうございました。委員と同じような意見なのですが、二小を見させていただいて、災害時の安全性はまずいと感じました。避難について、ましてや4階建ての小学校だから早急に対応策を考えるべきだと感じました。先程、委員がおっしゃられ

た通り、体育館があつた狭さだと、大雨などの緊急時に避難場所として体育館を使うこともあり、様々な意味で問題があると思います。体育館と併せてプールの設置場所も早急に考えるべきだと思います。教室などは何とかかなりそうだと感じました。学区の話ですが、難しい市だと思います。私もこの市で3代続いて住んでいますが、委員のおっしゃる通り、親に任せると、ちょっとした噂で子どもが一気に流れ出てしまうと思います。例えば、一小と二小が選べるとして、幼稚園の些細な噂や二小のここが良いという噂があるだけで、全員二小に流れてしまうと思います。とても単純ですが実際そんなものです。ですので、隣接しているところは、第一選択六小、第二選択二小とするなど、決定は市に委ねた方が良いでしょう。その上で、思い切った学区の編成はすべきだと思います。特に一小の学区はいびつだと思います。本宿小が近く、見える距離にある団地なのに一小に通っている団地があります。南側では、甲州街道よりも南なのに、一小に行っているというところがあります。平成24年に学区の編成をしたときに、とても苦労されたと聞いています。ただそれは悪しき風習だとも思っています。市側ではなく、地域に根付いているから良い部分もあり、悪しき部分も住んでいる者としてあると思います。例えば本宿小は近くにマンションができたときに児童数が増えましたが、今後は減少する前提となっているので、ならば本宿小学区を広げるなど、まずは一か所を広げていくことが良いと思います。今ある施設を有効的に活用することが大事だと思うので、学区の編成は必要であり、隣接学区では完全な自由選択ではなく、ある程度の道筋は市で立てていただくのが良いと思います。そして、これから転入される方には府中市の学区は今後流動的になっていくと伝えていいと思います。

【会長】

ありがとうございました。今いただいた意見については次回以降、メリット・デメリット、課題等々詰めながら検討していきたいと思っています。恐縮ですが、他の委員の方も意見があると思いますが、今日中に4校を扱わなくてはならないので、続いて、一小の対応策について伺いたいと思います。二小と同じような問題ですが、グループ内の状況や隣接のグループの状況を考慮していただいて、一小の対応策についてご意見を頂ければと思います。

【会長】

二小で出た意見と共通するところが多いですかね。そういう風に引き取らせていただいて、続いて小規模の武蔵台小の対応策について、ご意見を伺いたいと思います。一小、二小とは異なる諸条件を抱えていると思います。これについていかがでしょうか。

【委員】

武蔵台小は、先程の議論と継続するのですが、将来的な人口を考えたときに、いかにせん武蔵台小ブロックに関しては、急激な人口増加が起こることはないと思います。建築的に解決できることは解決していきたいと思っているのですが、いかにせん子どもの数が減っていくことは建築的にはどうしようもできない状況です。子どもが少ないことを放置しておくことには納得いかないの、一番近い七小と武蔵台小が一つになるという考えがいいと思います。離れ離れになるのではなく、一つになるのであればネガティブに考えなくてもいいのではないかと思います。特に、中学校区で固まっていれば、最終的に中学校で一緒になる子ども同士であれば、一つのグループになっていくのであれば本望でないかと思います。ネガティブな理由で子どもを誘導しない方がいいということです。ただ、七小と武蔵台小のどちらに建物を建てるかとなったときに、建物の老朽度等を考えなくてはなりません、本当であれば新しい土地に新しい学校を建てるのが一番だと思います。ただし、防災の観点は非常に大事です。また、私は、「学校は地域コミュニティの核」という言葉が疑問で、祭りとかがあってこそその地域のコミュニティの核だと思うのですが、学校を作り直すときは、地域コミュニティの核となる施設を新しく作り直すしかないと思っています。そのときに、最低限必要な空地とか建物とかを利用して新しい地域コミュニティを作っていくことになると思いますが、地域に根差した思い出をどういった形で残していくか知恵を絞らなくてははいけないと思います。

【会長】

他にいかがでしょうか。

【委員】

小規模校化への対応としては、統合しかない気がしています。ただ、通学距離の地図を拝見しますと、武蔵台小学校の人数が多いところが七小の1km圏内から外れています。そうすると、通学条件の悪化が避けられず、どういった統合をするのか考えなくてははいけないと思います。例えば、低学年は分校化して残すとか、施設が良いものだったのでコミュニティセンターとして残すなど、様々な方法が考えられるのですが、十分なケアを考えた上での統合を目指さなくてははいけないのかと思います。

【会長】

ありがとうございました。統合という選択肢が有力だというご意見を頂きました。統合といっても様々なバリエーションを含めての話ですが、それに対して先程委員の方から、統合に関して違った意見もありましたし、前は小学校と中学校の小中一貫校化の話も出ましたが、それも含めて武蔵台小に関してご意見を頂けたらと思います。

【委員】

前回、小中一貫校のお話をさせていただいたのですが、なかなかメリットを挙げるのも難しいと思うのですが、見方が違うのですが、仮に武蔵台小と七中を一貫校にした場合、先生の不足や様々な面で便利になるというメリットがないのか検討していただきたいです。加えて、委員から話があった通り、統合で新しい学校を建てるとするならば、学区の理想だと2校の中間地点であるとか、学校の名前は一方の学校の名前を引き継がずに、例えば北山小学校だとか、名称を考えなくてはいけないと思います。通学路について、18ページの地図の右上の濃いオレンジの場所ありますよね。ここは西国分寺駅が最寄りになり、七小が隣接だと思うのですが、一瞬、国分寺市を通ると、九小の方が通いやすい。何が言いたいかというと、通学路が他市にまたがるのは問題ないのかだめなのか。他には、トヨタのスポーツセンターの跡地や、東芝の北側とか、もし新しい場所に学校を建てるとなったらそのような場所も有りなのかもしれませんが、既存の施設を活かすのが一番いいですよ。結論が難しいですね。

【会長】

いま危惧されたいろいろな条件は加味しながら検討していけばよいと思います。他の委員の方もご意見があれば自由に出していただければと思います。

【委員】

今日は二小を見学させていただいて、一年生の場合は体が小さいからそんなに感じませんでした。が、六年生の場合はこれでみんな平等に教育を受けているのかと思うくらいに、条件の悪い教室で勉強しているとつくづく感じました。先程もお話があったように、あれだけ密になっていると災害が発生したときにどのように避難するのかというようなことも、考えなくてはいけない。武蔵台小のような小規模校ではなく、むしろ大規模校に早く手を付けていくことが必要ではないかと、時間が許されないぐらい厳しい条件になってきているという風を感じました。その中でどのように解決していけばいいのかと、校舎の増改築は一生懸命しているのですが、条件の悪い状態になっています。いくら継ぎ足しをしても元の状態に戻るのには難しいのではないかと。途中で、通学区域の見直しを考えていく必要があるのではないかと。特に二小の場合はAグループに属するのですが、Aグループの中で余裕のある小学校があるのかをみたときに、若松小学校は二小に近いということも含めまして、今後の学校の受け入れ可能な児童数がでている13ページを見ていただければ、少しでも余裕のある学校の区域を拡大していき、そちらの方に移動させることを考えていかない限りは早急な手当てはできないのではないかと考える次第です。二小の場合はそれでよいですが、一小はどうするべきか。15ページ

に書いてありますが、近隣の小学校は六小、九小、新町小であり、一小から距離を隔てていると思うのです。一小の場合Eグループになるのですが、第三小学校の方が近い気がするのです。そうするとグループ分けがややこしくなってくるのですが、一小から九小、六小、新町小学校からの移動は難しいとするならば、近隣の三小なども考えながら、早急にそちらの方に移すことが求められるのではないかと思います。

【会長】

一小、二小の対応策について追加的な意見を頂きました。時間がないので、七中の対応策について意見を頂きたいと思います。七中は、Dグループで、四中、七中、十中でグループとなっていますが、こちらの対応策についてご意見を頂きたいと思います。Dグループには3つの中学校がありますが、四中については、生徒数が増加と予測され、大規模一步手前の規模と予測されています。七中・十中は生徒数が減少と予測されています。そのあたりも加味していただいて、可能な対策についてご意見いただければと思います。

【委員】

規模の問題を解消しようとするならば、いずれかの学校との統合を検討しなければならないと思います。ただその場合、距離で考えるよりも、時間と安全で考える必要があり、もし仮に北部に住んでいる方がバス1本で簡単に通え、雨が降っても部活で遅くなくても簡単に帰れることが保証されるのであれば、十分に統合を検討する余地があると思います。距離で考える方法は、全国均一的に考える時の標準であり、市町村単位で考えるのであれば、もっと解像度の高い議論をする必要があると思います。250m メッシュというのも、国土地理院のデータでやむをえないと思いますが、小学生の場合は50m歩くのに1分かかるので、1メッシュの通学で5分程度の誤差があります。可能であれば、通学時間やその間にあるハザードマップなどを加味した議論をしたうえで、他地区への統合を選択肢に含めることになると思います。

【会長】

ありがとうございました。今の委員からの話では、七中の対応策として統合を考えたときに、統合の相手となる学校は距離や学校規模を考えると十中になるという趣旨でよろしいですか。

【委員】

前提はそうです。

【会長】

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。先ほどの、武蔵台小の統合に関わる意見と重複するご意見が多いかと思えますけれども、いかがでしょうか。通学距離、時間については小学校よりも、弾力的に考えられる要素もありますので、その点も含めていかがでしょうか。

【委員】

娘を武蔵台小に通わせていた一保護者としての意見なのですが、七中と武蔵台小学校というのは非常に近いですし、行き来もあると校長先生もおっしゃっていたように、仲良しな小学校と中学校です。そこが小中一貫になるというイメージは個人的に持てるのですが、十中と七中が一つになるというイメージが個人的には持ちにくく、地域の方も同じようなイメージを持っている気はします。

【会長】

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

【委員】

先ほど統合の意見で、考慮すべき選択肢の1つとして、十中と七中の間に何か土地があるのか提示していただくことは可能でしょうか。今回の対応策の中に移転、新設というパターンが含まれるのか含まれないのかという話です。次回是对応策のシミュレーションという話があるので、具体的な土地をシミュレーションに含めるのかという質問です。

【事務局】

状況を確認させていただきながら、出せる情報を出します。出せない情報は出さないという形で検討させていただければと思います。

【委員】

出してほしいという意見ではなく、無理なものは無理と言っていたきたいという趣旨です。

【会長】

その趣旨で、事務局の方でご検討いただければと思います。時間も、もう12時を過ぎてしまいましたが、七中への対応策についてお話が出ているのは、統合と、統合はイメージしづらいという話もあって、この点は次回以降に議論しましょう。統合とって

も、先ほど武蔵台小の話でも出たように、考えなければならないことが沢山ありますので、その辺は七中の対応策を検討する際、先ほど武蔵台小学校の統合に関して出た意見も考慮して整理していただければと思います。事務局の方、よろしく願いいたします。あと事務局の方で確認なのですが、委員から出ていた市外の場所を通る可能性も事務局の方で検討していただきたいです。

【委員】

併せてすみません。そのルートが路線バスを使っていいのかも確認していただきたいです。武蔵台2丁目から九小は、バスで行けます。本数も安定して多いです。

【会長】

全体を通じて委員の方から言いたいことがあれば、あと数分伸びますが意見をお伺いしたいと思います。

【委員】

小学校は、統廃合の議論はあってもいいと思うのですが、府中市の中学校は、体感的に少ないと思っています。通学距離が長いと感じるところも多いので、統廃合は、中学校では議論にすべきではないと思います。学区の変更で対応すべきと思います。地図を見て学区をかなりいじれると思いました。あと、お願いなのですが、この学区域図を、可能であればこの協議会の期間中、委員が持ち帰って資料として使うことを許可頂ければと思いますが、いかがでしょうか。

【会長】

問題ないと思いますが、事務局いかがでしょうか。

【事務局】

第8回が終わった時点で回収いたします。

【会長】

最後に、議題4の「その他」について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

それでは、事務局から今後の予定について、お伝えいたします。

次回の第6回協議会の日程でございますが、6月20日火曜日の13時半に開催予定で会場は第2庁舎を押さえています。また、その後は第7回が、7月10日月曜日午前

10時から教育センターの予定です。第8回は、8月2日水曜日13時半から第2庁舎の予定です。今のところ6、7、8回の日にと会場については今押さえているところでお伝えしましたが、改めて連絡いたしますのでよろしくお願いいたします。

以上でございます。

【会長】

事務局から説明のあった「その他」について、ご意見やご質問はありますか。

それでは無いようですので、これで本日の第5回府中市学校適正規模適正配置検討協議会を終了します。

長時間にわたり、お疲れ様でした。

以上